

---

---

## 半島地域づくり会議 in 幡多

‘幡多らしさ・半島らしさを表現する ～柔軟でしなやかなネットワークをめざして～’

### プログラム概要

---

---

その昔、幡多郡は‘波多の国’と呼ばれ、当時の‘都佐国（土佐）’とは別に一国をなしていました。

天険の四国山脈は人の通行を拒み、その地を横断することは極めて困難であったことから、大和文化の土佐への伝播は、

すべて瀬戸内海を西へ進み、豊後水道を経て幡多へ入りました。まさに幡多は文化の移入地だったわけです。

一方で、幡多地域は、足摺岬、竜串、柏島などすぐれた景観を擁するとともに、

清流で名高い四万十川、水深があり開口性の良港としての宿毛湾など、様々な地理的特性を有します。

そのことは、それぞれに異なる生活風習や産業を生み育て、今日の人々の営みを規定してきました。

地域づくりの活動はこのことを再認識し、地域固有の資源を通して色とりどりの自己実現をめざすことに他なりません。

ここ幡多地域においても実に様々な自己実現の取組が展開されるとともに、各取組が微妙なバランスの中で重なりや交わりを繰り返しています。

まるで幡多地域全体として一つのタペストリーを織るように。

文化の入り口であり、多彩で重厚な文化を併せ持つ空間、それが「半島」ではないでしょうか。

この会議は、幡多地域をはじめ全国の半島より、地域の将来を考える「半島人」が一堂に会し、

自らの経験や知恵をお互いに共有し、それぞれの地域における実践活動の糧とすることを目的に開催するものです。

## 「半島地域づくり会議 in 幡多」の開催について

三方を海に囲まれ、国土の幹線軸から離れる等不利な条件に置かれた半島地域は、地場産業の衰退や高齢化の進行など様々な課題を抱えていますが、一方で、近年、住民が主体となって、美しい自然景観や独特の歴史・文化など半島地域ならではの地域資源を生かした地域づくりを進めようという活動も活発になっています。

半島地域は、海・里・山の多様な資源に恵まれ、海を通じた交流の拠点として栄えてきたことなど、地理的、歴史的、地形的に多くの共通点を持っています。半島地域が抱えている諸課題を解決し、住民主体の地域づくり活動を促進していくためには、共通した課題と問題意識を持っている各半島地域の住民、行政関係者等が一堂に会し、課題解決のための知見の共有を図ることが有効であると考え、一昨年の能登地域、昨年の宇土・天草地域に続き、高知県幡多地域を舞台に、そして、‘幡多らしさ・半島らしさを表現する ～柔軟でしなやかなネットワークをめざして～’ をテーマに、「半島地域づくり会議 in 幡多」を開催することといたしました。

幡多地域でも、地域活力の停滞が指摘され、過疎化・高齢化が進展しています。他の半島地域と同様、豊かな自然環境と独特の歴史・文化が育んできた地域資源を十分に活用しきれないといった課題も抱えています。一方で、UJ1ターナー者の増加や教育旅行の積極的な誘致などを契機に、都市との交流促進や特産品開発などに取り組む新しい動きも生まれています。本会議では、幡多地域で様々な地域づくりの活動に取り組んでいる人達とともに、地域を歩き、語り、考えることを通じ、「半島らしさ」を生かした地域づくりの姿を模索していきます。

この会議は、地域主体の「手作り」による「考え・学ぶ」会議をめざし、地域資源探查会を含め、2泊3日の日程で開催します。

1日目（1月31日）は、幡多半島で地域づくり活動に取り組んでいる方々が主催する体験プログラム等に参加することを通じて、地域の課題の解決方法についてともに語り、考えるフィールドワークを実施します。地域の人たちが、地場の素材で腕をふるった地域食を試食しながら、意見交換を行います。あなたの地域と同じ課題を抱え、それに別のアプローチから取り組んでいることを発見し、お互いにとって気づきの場になることでしょう。夜は、漁村集落を挙げて民泊に取り組む土佐清水の窪津地区で、幡多地域で継承されてきた「食」を一堂に会した交流会「幡多の食談義」を開催します。宿泊はもちろん民泊、地域の方々の暮らしに直に触れていただきます。

2日目（2月1日）は、黒潮町に会場を移し、幡多地域や他の半島の地域づくり実践家の方々を招いた事例発表、並びに半島の魅力を

高め、それらを外へ発信（表現）していく際の関係者の緩やかな結びつき、さらにはこれを可能にする具体的手法などについて、互いの知恵を共有するための討論会を実施します。また、会場となる黒潮町ふるさと総合センター前で、野菜や果物、加工品などの地元食材を通じて、生産者と消費者とを直接つなげる「ファーマーズ・マーケット in 幡多」を同時開催します。さらに今回は、会議後に幡多地域の魅力的な資源の数々をダイジェストで堪能いただける地域資源探査会も企画しております。

1日目のプログラム並びに地域資源探査会は、事前の申込みが必要となりますので、このプログラム概要をお読みの上、お申込みをお願いします。2日目の全体会議につきましては、事前の申込みは不要ですので、どなたでもご参加いただけます。

各半島地域をはじめ、地域づくりに関心をお持ちの全国の皆様のご参加をお待ちしております。

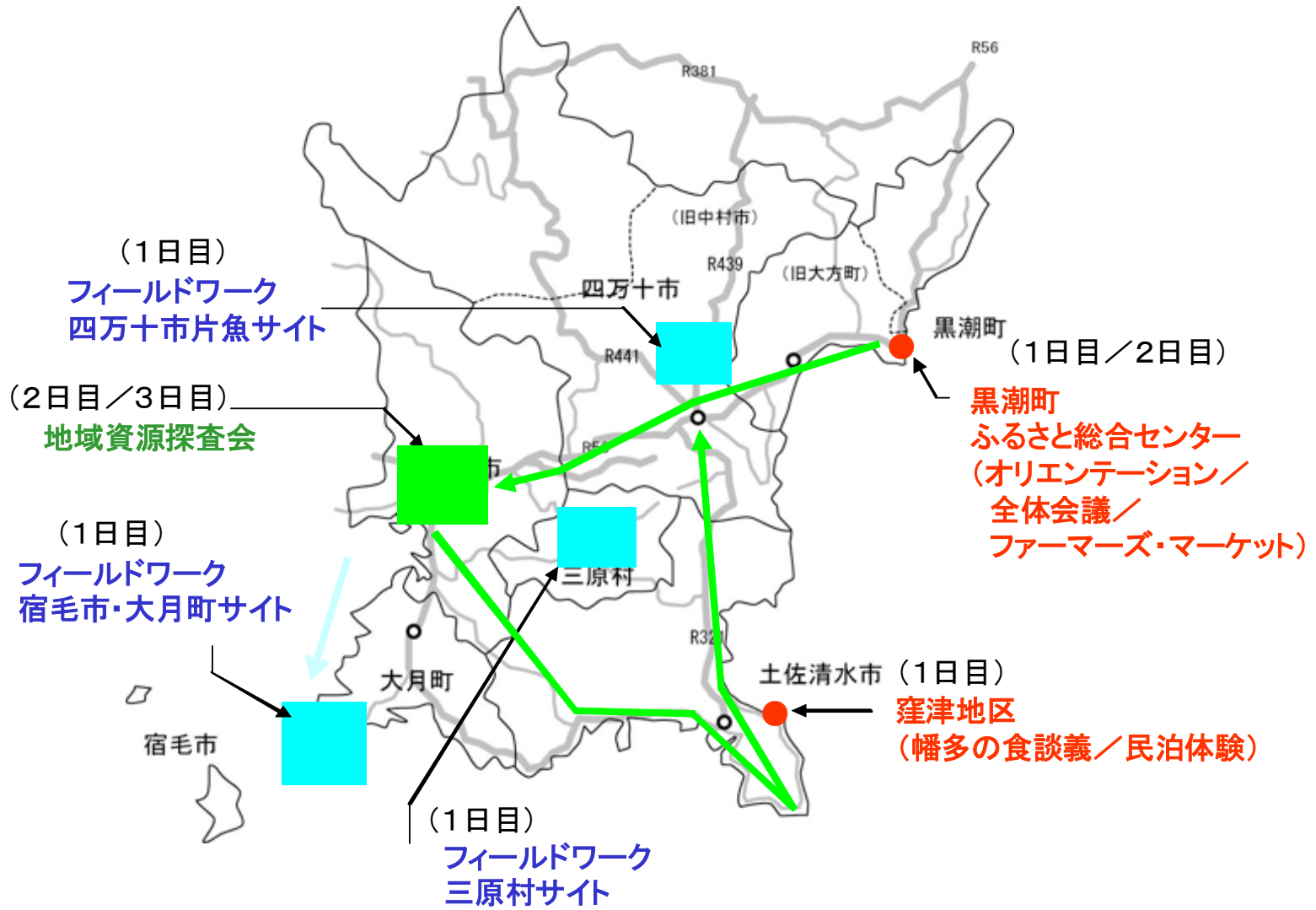
国土交通省都市・地域整備局半島振興室

日 時	平成21年1月31日（土）～2月1日（日）
場 所	1日目 （オリエンテーション） 黒潮町ふるさと総合センター 大ホール[黒潮町] （フィールドワーク） ふれあいの里[四万十市片魚] 交流センター[三原村] 黒潮実感センター [宿毛市・大月町柏島] 総括ディスカッション 窪津漁協集会室[土佐清水市窪津] （幡多の食談義） 窪津漁協集会室 2日目 （全体会議） 黒潮町ふるさと総合センター 大ホール[黒潮町] （ファーマーズ・マーケット in 幡多） 黒潮町ふるさと総合センター前広場[黒潮町] （地域資源探査会） 幡多の魅力丸ごと体感
主 催	国土交通省
共 催	高知県
協 力	四万十市 宿毛市 土佐清水市 黒潮町 大月町 三原村 幡多広域市町村圏事務組合 半島地域振興対策協議会 半島地域振興対策議会議長連絡協議会 全国半島振興市町村協議会

## 各プログラムの概要について

1月31日(土)のプログラム		2月1日(日)のプログラム	
フィールドワークと幡多の食談義 (10:30~20:30)		全体会議(10:00~13:00) 黒潮町ふるさと総合センター 大ホール	
10:00 10:30~11:00 11:10 11:00~16:00	<p>開場・受付 [黒潮町ふるさと総合センター 入口] 開会・オリエンテーション フィールドワーク出発(移動:40~60分) フィールドワーク(※3つのサイトがあります)</p> <p>① 四万十市片魚サイト(12:00~16:00) ② 三原村サイト(12:00~16:00) ③ 宿毛市・大月町(柏島)サイト(12:30~16:00) 基本構成:現地巡見・体験(120分) 郷土料理試食・意見交換(60分) ディスカッション・まとめ(60分)</p>	9:30 10:00~10:15 10:15~11:00 (各15分程度の報告)	<p>開場・受付 開会・挨拶(国土交通省、高知県) 事例報告 ■野村満久(莓氷り本舗(株):大月町) ■宮崎 聖(四万十ガイア自然学校:四万十市) ■石田三示(NPO 法人大山千枚田保存会:千葉県鴨川市) 休憩 徹底討論 '幡多らしさ・半島らしさを表現する ~柔軟でしなやかなネットワークをめざして~' ■コーディネータ 茨澤寿一(NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会) ■討論者 梅原 真(梅原デザイン事務所) 大原泰輔(NPO 法人高知県西部 NPO 支援ネットワーク) 八木和美(法政大学大学院エコ地域デザイン研究所) 八木雅昭(NPO 法人高知県西部 NPO 支援ネットワーク) 山下慎吾(魚と山の一空間生態研究所) ファーマーズ・マーケット in 幡多の紹介 閉会・挨拶(黒潮町) 昼食・ファーマーズ・マーケット in 幡多の見学 地域資源探査会出発 宿泊地へ(翌日正午まで、探査会実施)</p>
17:00 17:30~18:30	<p>食談義会場(窪津)到着 総括ディスカッション [窪津漁協集会室]</p>	11:00~11:15 11:15~12:50	
18:30~20:30 20:30	<p>幡多の食談義 [窪津漁協集会室] 閉会・各民泊場所へ移動</p>	12:50~12:55 12:55~13:00 13:00~14:00 14:10 18:00	

# 半島地域づくり会議 in 幡多の会場等について



## フィールドワーク プログラム概要（1日目）

<p>① 四万十市片魚サイト ～農村生活に根ざした モノづくり体験プログラムを考える～</p>	<p>四万十市片魚地区は、旧中村市市街から車で40分、四万十市の北東部に位置しており、農村の原風景が広がる山の資源豊かな集落です。過疎化・高齢化の波はここ片魚地区にも押し寄せ、このままでは農業経営はもとより、集落の存続そのものが危ういとの危機感から、平成14年に近隣の3つの地区とともに、「東富山安全食材生産部会」及び「東富山交流促進部会」を設立、学校給食への食材提供や農業体験を通じた都市住民との交流等を図っています。また、平成17年には4地区全住民を会員とする「東富山ふるさとを守る会」を結成し、中山間地域等直接支払制度を活用して、地域内の福祉活動や集落営農への取組を行っています。</p> <p>このフィールドワークでは、豆腐・こんにゃく・番茶づくりなど実際の食体験を通して、一つの体験メニューが、農村生活の中でどのように位置づけられているか、それらを参加者にどのような方法で伝えていったらよいかなど、乱立傾向にある産地間の競争に勝ち抜くための魅力ある体験メニューの創造、それらの発信方法について考えます。</p>
<p>② 三原村サイト ～森の姿や間伐材利用を通して 森・川・海のつながりを考える～</p>	<p>三原村は、四万十市、宿毛市、土佐清水市に囲まれた幡多半島の中心に位置し、村の面積の約9割が森林というまさに日本の山村の原風景が広がる地域です。林業の衰退とともに、過疎化・高齢化が急激に進み、村落機能の低下が危ぶまれる中、間伐材を活用した施設整備や高齢者にとっての生き甲斐づくりを支援する組織「NPO法人いきいきみはら会」を設立、森づくりを通じた地域おこしの活動を展開しています。</p> <p>このフィールドワークでは、海や川を含めた生態系保全に重要な森林に着目し、実際に森を歩き間伐の現場を見ることで再確認するとともに、間伐材利用状況の見学やシシ鍋の試食などを通して、森の生活や森・川・海のつながりを体感し、森が生み出す数々の資源を活用した生態系保全策や地域振興策について考えます。</p>
<p>③ 宿毛市・大月町（柏島）サイト ～季節を超えた海の 体験プログラムを考える～</p>	<p>宿毛市から大月町に至る幡多西海岸の雄大な自然美、それを代表する柏島は、幡多半島の最西端、本土側と橋で結ばれた周囲4kmの島です。黒潮と豊後水道がぶつかる周辺海域は、約1,000種の魚類が確認されており、ダイビングや磯釣りのスポットとして全国から注目を集めています。その柏島で活動するのが、生きた環境や生態を体験・実感できる、島丸ごとフィールド・ミュージアムをめざす「NPO法人黒潮実感センター」であり、また、同センターとともに柏島や幡多半島を体験活動の場とする「エコ幡多」です。</p> <p>このフィールドワークでは、夏場に集中してしまう海の自然体験について、冬場のメニューを創造・実践することを通して、自然資源に依拠した地域で通年型の観光交流プログラムを定着させるための方策を考えます。</p>

## ① 四万十市片魚サイト

テーマ：農村生活に根ざしたモノづくり体験プログラムを考える

受入団体：東富山交流促進部会、地元婦人部グループ等

主な施設等：ふれあいの里（拠点、昼食場所）

ファシリテーター：畦地 和也（NPO 法人高知県西部 NPO 支援ネットワーク）

当日の行程：次のとおり。

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 11:50       | サイト到着〔ふれあいの里〕       |
| 12:00~12:10 | スタッフ紹介、当日の行程の説明     |
| 12:10~12:30 | これまでの農業体験活動の紹介      |
| 12:30~13:10 | 昼食（郷土料理の試食と意見交換）・休憩 |
| 13:10~15:00 | 豆腐・こんにゃく・番茶づくり体験    |
| 15:00~16:00 | 意見交換会〔ふれあいの里〕       |

農村の日常生活において培われてきた食文化を体験プログラムの中でどう位置づけるか、それらを参加者にどのような方法で伝えていったらよいかなど、乱立傾向にある産地間の競争に勝ち抜くための魅力ある体験メニューの創造とそれらの発信方法を議論。



## ② 三原村サイト

テーマ：森の姿や間伐材利用を通して森・川・海のつながりを考える

受入団体：NPO 法人いきいきみはら会、地元婦人部グループ等

主な施設等：交流センター（拠点、昼食場所）

ファシリテーター：大原 泰輔（NPO 法人高知県西部 NPO 支援ネットワーク）

当日の行程：次のとおり。

- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 11:50       | サイト到着〔交流センター〕                   |
| 12:00~12:10 | スタッフ紹介、当日の行程の説明                 |
| 12:10~12:30 | 三原村の林業や地域活動の紹介                  |
| 12:30~13:20 | 昼食（郷土料理の試食と意見交換）・休憩             |
| 13:20~15:00 | 森林散策・間伐見学（森の実態観察）、<br>間伐材利用状況見学 |
| 15:00~16:00 | 意見交換会〔交流センター〕                   |

海や川を含めた生態系保全にとって重要な森林の実態について、実際に森を歩き、間伐の現場を見ることで再確認するとともに、間伐材利用状況の見学やシシ鍋の試食などを通して、森の生活や森・川・海のつながりを体感。森が生み出す数々の資源を活用した生態系保全策や地域振興策について議論。



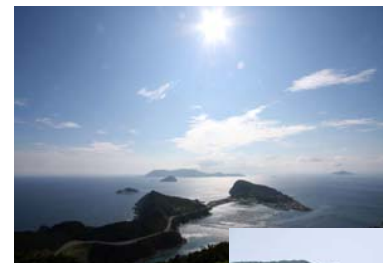


### ③ 宿毛市・大月町（柏島）サイト

テーマ：季節を超えた海の体験プログラムを考える  
受入団体：エコ幡多、黒潮実感センター、漁協婦人部等  
主な施設等：黒潮実感センター、展望台（拠点、昼食場所）  
ファシリテーター：清家 敬太郎（エコ幡多）  
当日の行程：次のとおり。

12:00	サイト到着〔宿毛市・片島港〕
12:10~12:20	スタッフ紹介、当日の行程の説明
12:20~13:00	ウォータータクシーで大月町・柏島へ
13:00~13:30	南十字星がみえる展望台へ移動
13:30~14:00	昼食（島弁当と七輪焼きたて干物の試食）・柏島展望
14:00~15:00	島内散策（島のナビゲーター 山本さんの案内）
15:00~16:00	意見交換会〔黒潮実感センター〕

島丸ごとフィールド・ミュージアム構想を展開する黒潮実感センターの取組について学ぶとともに、夏場に集中してしまう海の自然体験について、冬場のメニューを創造・実践することを通して、自然資源に依拠した地域で通年型の観光交流プログラムを定着させるための方策を議論。



## 全体会議 プログラム概要（2日目）

### （1）発表事例の概要

幡多地域並びに全国の半島地域から、各地で実践活動に取り組まれている方々をお招きし、事例報告をしていただきます。

発表事例／発表者	取組概要
<p>一期一会の「莓氷り」を大月町とともに全国へ</p> <p>野村 満久氏 （莓氷り本舗株式会社 代表取締役）</p>	<p>莓氷り本舗(株)は、地域の農産品を利用した特産品づくりに取り組み、イチゴを丸ごと凍らせてその氷を削った、これまでにないかき氷「莓氷り（いちごおり）」を開発・商品化しました。道の駅「大月」での委託販売や、町内外から3万人を超える人が集まるイベント「コスモまつり」での販売など、地域の特産品としての認知度が高まってきました。現在でも、県外のイベントへ積極的に出店し、消費者とのコミュニケーションを図る中で「莓氷り」とともに、大月町の魅力を伝えるPR活動を続けています。道の駅では平成19年5月～10月の期間に約1万個、スーパーよさこいでは2日間で約4,300個を売り上げるなど人気の商品となっています。平成19年度第22回高知県地場産業大賞の「奨励賞」にも選ばれました。</p>
<p>「龍」がつなぐ四万十のネットワーク —四万十川での新たな挑戦—</p> <p>宮崎 聖氏 （四万十ガイア自然学校 代表）</p>	<p>四万十ガイア自然学校は2008年3月に誕生しました。2007年3月26日から4月1日に四万十楽舎主催で開催された四万十ドラゴンランのスタッフが主なメンバーで、基本的に個々に自立した「案内人」で構成されています。四万十ガイア自然学校は、四万十川流域と幡多地域の〈森・川・海〉と暮らしの案内人（ガイド・インストラクター）のネットワークです。</p> <p>【四万十ドラゴンランについて】</p> <p>私たちは四万十川流域の源流から河口までのツーリズムを「四万十ドラゴンラン」と呼んでいます。源流域を出発した川の流れは太平洋に向かって南下、中流域での流れは真西に流れを変えます。そして下流域では再び方向を真南に変えて太平洋にそそぎます。この様に四万十川は〈先入蛇行〉の繰り返しで曲がりくねった川の様相はガイアの視点で見るとドラゴン（龍）にも見えます。このドラゴンの頭（源流）から尻尾（河口）をツーリングすることを「ドラゴンラン」と名付けました。</p>
<p>千枚田保全から拡がる房総発地域活性化</p> <p>石田 三示氏 （NPO 法人大山千枚田保存会 理事長）</p>	<p>大山千枚田は「日本の棚田百選」にも選ばれ、東京から一番近い棚田として多くの来訪者があります。耕作者の高齢化、後継者不足を背景に、棚田の維持保全のみならず、地域の景観、農的な暮らし・文化、自然の生態系など、農業と共にあるさまざまな価値が損なわれるとの危機感から、地元農家を中心に「大山千枚田保存会」を設立し、棚田オーナーや酒米オーナー、棚田トラスト、大豆畑トラスト、綿藍トラスト等とともに、交流イベント、自然体験活動や帰農体験、家づくり体験塾等も活発に行っています。めざしているのは、都市との交流を通じて、都市住民のスキル、ネットワーク、情報を味方につけ、地域住民とともに地域価値を再発見し、地域を活性化することです。</p>

## **(2) 討論会**

地域づくり会議の最後のプログラムでは、樹木・環境ネットワーク協会理事長の渋澤寿一さんをコーディネータに、幡多で地域づくり活動を実践している人、幡多地域外の地域づくり、人づくりのスペシャリストを招き、討論会を実施します。

討論会のテーマは、今回の会議のメインテーマと同じく、既に取り組まれている様々な地域づくりの活動やそれらを繋ぐ枠組みすべてを包含する‘幡多らしさ・半島らしさを表現する～柔軟でしなやかなネットワークをめざして～’とし、そのことを具現化するためのモノの見方や考え方、さらには具体的手法まで幅広く議論します。半島の魅力を高め、それらを外へ発信（表現）していく際、無理に中心（求心力）を求めようとするのではなく、各主体の活動をベースに、それぞれの活動がまさにネット（網の目状）のように、誰かを通じてまたは何かを通じて緩やかに繋がることで、地域として弛まない強みを発揮していくことを狙いとします。

## **(3) ファーマーズ・マーケット in 幡多**

幡多地域は東西と南を海に囲まれ、四万十川が太平洋に注ぐ、開発から少し(?)遅れた、それゆえ自然が豊かな地域です。この幡多地域で初のファーマーズ・マーケットを開催します。オーガニック（有機）で作っている人も、作っていない人も、安全で安心のホンモノをめざしている、農家や個人、団体が生産する商品が一堂に会します。食べ物だけでなく、工芸品や手芸品、木工などの特産品のほか、地域の加工グループや個人による商品化して間もない商品、試作段階にあるモノなども並ぶ予定です。あわせて、“オーガニック”な生活をめざしている人たちの出会いの場、ネットワーク作りの場を提供いたします。独特の地域文化を育ててきた、幡多地域の品物をご堪能ください。

## **幡多の食談義（1日目・夜）**

地域の文化は食なくして語れません。また、地域活力の活性化にとっても、食の果たす役割は極めて大きいと言えます。幡多地域にも、新鮮な海や山の幸を素材にした豊かな食があります。今回の食談義のメイン会場は土佐清水市の窪津地区。大敷網（定置網）の盛んなところで、毎日多種多様な魚が揚がる漁師町です。まさに冬が旬のブリ料理（刺身、魚飯、アラ炊き等）はもちろんのこと、水揚げ次第ではウツボやマンボウといった珍しい海の幸が食談義に花を添えるかもしれません。さらに三原村をはじめ幡多の他の地域からも様々な食材を集め、幡多の食文化の豊かさを実感していただきます。

## 半島地域づくり会議 in 幡多への参加申込みにあたって

### 1/31 のプログラム

#### (1) フィールドワーク

- ・ フィールドワークの参加には、事前の参加申込みが必要です。（各サイト定員 20 名程度）
- ・ 5ページの3つのフィールドワークのコースの中から、希望されるものについて第1希望、第2希望をお知らせ下さい。
- ・ 各コースには定員がございます。参加者が多数の場合、他コースへの振り替え、または参加をお断りすることがあります。
- ・ 参加費は、各サイト¥3,000-（昼食代含む）です。宿泊料等と併せて、当日、オリエンテーションの受付時にお支払いください（12ページ参照）。

申込記号① 四万十市片魚サイト ～ 農村生活に根ざしたモノづくり体験プログラムを考える ～

② 三原村サイト ～ 森の姿や間伐材利用を通して森・川・海のつながりを考える ～

③ 宿毛市・大月町（柏島）サイト ～ 季節を超えた海の体験プログラムを考える ～

#### (2) 幡多の食談義

幡多の食談義は、1/31に宿泊される方の夕食を兼ねています。宿泊される方は、宿泊料と参加費を当日オリエンテーションの受付時にお支払いいただきます。なお、1/31当日、宿泊されない方で「幡多の食談義」へのご参加を希望される方（幡多地域在住の方等）は、参加申込みは必要ですが、参加費は、当日、オリエンテーションの受付時にお支払いください。また、フィールドワークに参加されずに、食談義だけのご参加はできませんのでご了承ください。

### 2/1 のプログラム

#### (3) 全体会議

全体会議は、どなたでも参加できます。事前の参加申込みは不要です。

## ケース別の一人あたりの参加費、宿泊費等について

### フィールドワーク、幡多の食談義に参加して、宿泊される方

フィールドワーク参加費

+

食談義参加費

+

窪津民泊 宿泊  
(朝食付)

＝計 ¥12,000-

(1/31 当日オリエンテーション  
会場受付にて現金で支払い)

※宿泊は全て相部屋（男女別）となります。宿泊施設の割り振り、部屋割りにつきましては事務局が行わせていただくことをご了承ください。

※宿泊希望者多数により、民泊の受け入れが困難な場合は、旅館等に宿泊いただく場合がございます。

なお、食談義後並びに翌朝の集合場所までの送迎は各宿が行います。

※フィールドワーク参加費の中には、資料代、昼食代、保険料等が含まれます。

### フィールドワーク、幡多の食談義に参加し、宿泊されない方（幡多地域在住の方等）

フィールドワーク参加費

+

食談義参加費

＝計 ¥7,000-

(1/31 当日オリエンテーション会場受付にて現金で支払い)

※幡多の食談義のみの参加はできません。

### フィールドワークのみに参加される方（幡多地域在住の方等）

フィールドワーク参加費

＝計 ¥3,000-

(1/31 当日オリエンテーション会場受付にて現金で支払い)

※できるだけお釣りがないようにご協力ください。

## 地域資源探査会 ～幡多の魅力 丸ごと体感～（2/1～2）について

- 日 時：平成 21 年 2 月 1 日～2 日（会議終了後 14:10 出発、中村駅 12:00 到着・解散）
- 行 程：黒潮町ふるさと総合センター前→佐田沈下橋→浜田の泊まり屋→だるま夕日→宿泊（宿毛市内：国民宿舎「椰子」を予定）  
→足摺岬・金剛福寺→中村駅
- 費 用：¥10,000-（1泊2食付） ※宿泊を伴わない場合は、¥4,000-
- 支払方法：1/31 当日オリエンテーション会場受付にて現金で支払い
- 解 散：中村駅（2月2日 12:00 頃）

### 【資源の見所】

佐 田 沈 下 橋：沈下橋とは増水時に川に沈んでしまうように設計された欄干のない橋のこと。佐田沈下橋は四万十川最下流で最長のものです。

浜田の泊まり屋：幕末から明治にかけて、幡多地区の各部落では泊り屋を建てて若い衆が宿泊する風習がありました。今は4軒しか残っていないうちの1軒で、2間4方の木造高床式平屋建て、国の重要民族資料に指定されています。

だ る ま 夕 日：宿毛湾の神秘的な落日、そして冬の風物詩。11月から2月ごろまで見られる現象で、まるで海から「だるま」が顔をのぞかせているように見えることから「だるま夕日」と呼ばれています。

足 摺 岬：足摺半島の突端にある四国最南端の岬。21世紀に残したい日本の風景四国第一位です。岬のそばに、第38番札所「金剛福寺」があります。



※ 申込者が定員（20名）に満たない場合は、中止させていただく場合がございますので、予めご了承ください。

## お申込み・お問い合わせについて

○別紙参加申込書に必要事項をもれなくご記入の上、下記宛に平成 21 年1月9日(金) までに FAX、または郵送にてお申込みください (郵送の場合は1月9日(金) 必着)。メールでの申込みはご遠慮ください。

○宿泊確認書などの書類は、平成 20 年 12 月 24 日(水)より順次発送し、平成 21 年 1 月 16 日(金)までにお申込み代表者宛に、原則 FAX にてお送りします (参加申込書に FAX 番号を必ずご記入ください)。

○なお、宿泊確認書・請求書などの内容に相違がある場合には、FAX またはメールにて下記連絡先までお申し出ください。

### <問い合わせ先>

国土交通省 都市・地域整備局 地方振興課 半島振興室

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3 TEL: 03-5253-8425 (直通) / FAX 03-5253-1588

担当: 横山、佐藤

### <申込み先及び申込みに関する問い合わせ先>

「半島地域づくり会議 in 幡多」事務局 [(財)日本システム開発研究所第二研究ユニット]

〒162-0067 東京都新宿区富久町 16-5 新宿高砂ビル TEL: 03-5379-5932 / FAX 03-5379-5929

E-mail: hantoin@srdi.or.jp

担当: 岩崎、中山、木下

次のホームページからも参加申込みファイルをダウンロードできます。 <http://hanto.jp> (12月中旬以降開設予定)

○お申込み後に取消・変更・追加が発生した場合には、速やかに FAX、メールまたは郵便にて運営事務局までご連絡ください。お電話での取消・変更はお受けできませんのでご了承ください。

○開催7日前以降のキャンセルは、フィールドワーク運営、民泊など今回の会議にご協力いただいております多くの方々に多大なご迷惑をお掛けすることになりますので、ご遠慮ください。なお、やむを得ずキャンセルする場合は、経費実費をご負担いただくことがございます。

○プログラムについては、予告なく変更する場合がございますので、ご了承ください。

## 会場までの主なアクセス

オリエンテーション（1月31日[土]）・全体会議会場（2月1日[日]）

（黒潮町ふるさと総合センター：〒789-1931 高知県幡多郡黒潮町入野 176-2 TEL 0880-43-3369（代））



※ 「黒潮町ふるさと総合センター」は、土佐くろしお鉄道の土佐入野駅より徒歩5分ほどのところにあります。

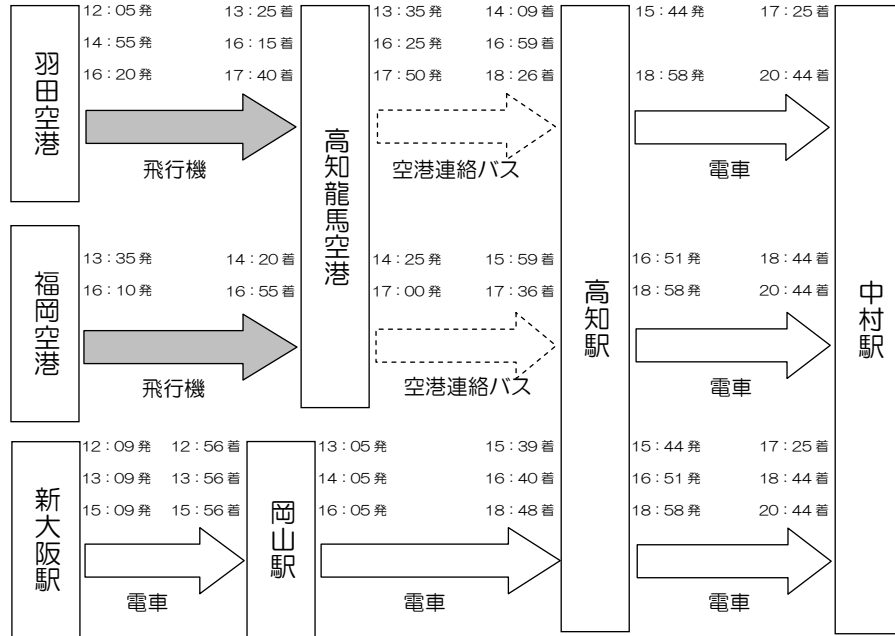
※ 会議開催中の各会場への参加者移動はバスで行います。お車で越しの方は駐車場をご利用ください（無料）。駐車場は夜間施設します。貴重品を車内に置いたままにしないでください。

※ 前日（1 / 30）の宿泊先については、四万十市観光情報をご覧ください（<http://www.city.shimanto.lg.jp/kanko/stay.html>）。

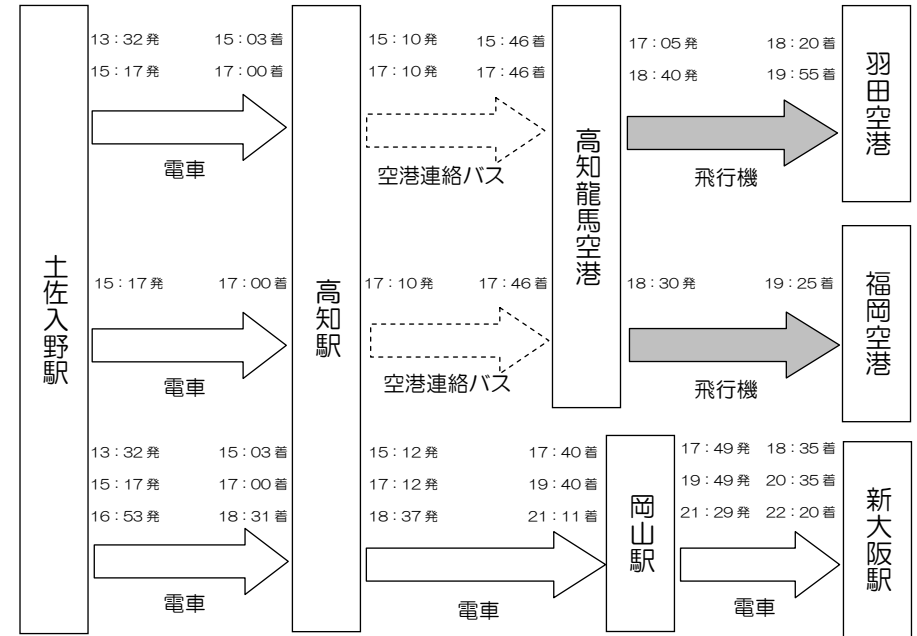


**公共交通機関でお越しの場合**（時刻表は平成20年9月現在のものです。実際のご利用にあたっては各自でご確認ください）

1月30日<金> ※前日現地入りの場合



2月1日<日>



1月31日<土>



◆天候・道路状況などにより、時刻が前後する場合がございます。